この空も…この海も…
なにもかも信じられない
愛でさえも——
異郷の果てにさすらい
青春を沈めた
日本の女たち
サンダカン八番娼館
異郷
原作・山崎朋子
第4回大宅壮一ノンフィクション賞受賞
「サンダカン八番娼館」(筑摩書房版)より
脚本・廣澤 榮
熊井 啓
製作・佐藤正之
椎野英之
熊井 啓
監督作品
栗原小巻
高橋洋子
田中 健(新人)
浜田光夫
砂塚秀夫
中谷一郎
小沢栄太郎
水の江滝子
岸 輝子
田中絹代
東宝
〈カラー作品〉
撮影■金宇満司
美術■木村威夫
録音■太田六敏
照明■椎葉 昇
音楽■伊福部昭
東宝・俳優座提携作品
東宝株式会社配給
映倫

サンダカン八番娼館
芸術祭参加作品
望郷

■**ものがたり**

女性史研究家・三谷圭子（栗原小巻）は、ボルネオ北端・サンダカン市の娼館跡にかってからゆきさんとしてそこに住んでいたサキの面影を抱きながら立っていた。

× × ×

圭子とサキ（田中絹代）の出逢いは三年程前になる。圭子は友人と天草を訪れた時、小柄な老婆にめぐりあった。からゆきさんの実態を研究している圭子には、直感でその老婆がからゆきさんであった事を感じとった。それがサキだった。サキの優しい人柄は、圭子を息子・勇治の嫁だと村人に紹介するのだった。圭子は、サキの波瀾に富んだであろう人生を一刻も早く知りたいという衝動にかられた。帰京した圭子は、大きな賭けを胸に秘め再びサキを訪れ、共同生活を始めた。村人の不審な眼、行商人、イッチャンの暴行未遂事件を期にサキは重い口を開いて過去を語り出した。

× × ×

サキ（高橋洋子）の父は彼女が四才の時に世を去り、その後母のサトは父の兄に嫁いだ。そんな時サンダカンで娼館を経営する太郎造（小沢栄太郎）は、サキに外国行きを勧めた。サキは〝からゆきさん〟の意味もよく判らぬまま、ただキレイな着物が着れることだけで承知した。そして稼いだ金で兄に田畑を買い戻し家を建てて欲しいと願うのだった。

サキはからゆきさんとしてサンダカンの八番娼館へ連れて来られた。そして前金の借金はいつの間にか増え、サキの体にずっしりとのしかかり地獄の生活が始った。そんな時、ゴム園で働く竹内秀夫（田中健）がサキの前に現われた。秀夫は頻繁にサキの許へ通い、芽生えた愛を大切に育てた。太郎造が倒れ、八番館の新しい主人となったおキク（水の江滝子）の尽力で八番館での生活は以前とくらべ天国のような日々となった。

南海の楽園に秀夫との恋に酔いしれるサキであった。だが、ゴム園の娘と一緒になるという秀夫の言葉で、サキの初恋はもろくも崩れ去った。おキクも日本人を弔うための共同墓地を残して死んだ。帰国した日、サキを待っていたのは冷めたい木枯しだけだった。母も既に亡く、兄の矢須吉も外国帰りのサキによそよそしい態度であった。サキはその夜哀しく泥酔した。その後渡満したサキは、北川新太郎と結婚し、勇治を生んだ。だが戦争はサキから夫も財産も奪った。戦後勇治と京都で暮らしたが、その息子も結婚するとからゆきさんの母が疎ましく、サキを天草へ帰した。

× × ×

サキと三週間程すごし、サキの奇跡なまでに至純な魂にふれた圭子は、今、敬虔なおもいでサンダカンの街に佇んでいる。そして、サキが云っていた通り、ジャングルの中におキクや秀夫たちの墓を発見した。ある時は涙を流し、望郷の念にかりたてられて死んでいったであろう日本人の墓は、みな祖国に背を向けて立っているとは……あまりの衝撃で、圭子はその場に芒然と立ちすくんだ……。

■**かいせつ**

「忍ぶ川」「朝やけの詩」と、一年ごとに秀作を発表している熊井啓監督が、第四回大宅壮一ノン・フィクション賞受賞に輝く、山崎朋子原作「サンダカン八番娼館」を映画化するもので、遙か南海に愛と青春を沈めていった日本の女たちの秘話を情熱をこめて描破する感動の文芸大作です。

出演者は女性史を研究する作家・三谷圭子に栗原小巻、元、からゆきさん〟の北川サキに田中絹代、若い時代のサキに高橋洋子、その恋人、秀夫に斉藤耕一監督が発見した新人田中健（本名・田中研一、昭和28年3月6日筑後市生れ、21才）がデビューしているほか映画、演劇のベテランが共演しています。

時代の背景は、圭子がサンダカンを訪ずれる現在（一九七四年）と、圭子がサキの家へ滞在する三年前（一九七一年）そしてサキが語る過去（一九〇七年、明治四十年から一九三一年、昭和六年）と、三つの時点を交錯しています。

舞台はマレーシア（旧英領ボルネオ）の北端にあるサンダカンと熊本県天草郡下島のある村です。

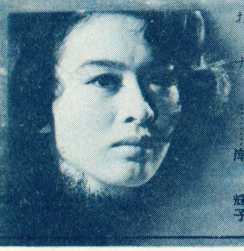
製作費、二億五千万円をかける超大作として、セットは東宝撮影所の東洋一を誇る特大ステージを利用、映画史上最大の規模のサンダカンの街と娼館を再現したほか、長期間にわたる海外ロケと九州・天草ロケが行なわれています。カラー・スタンダード作品。

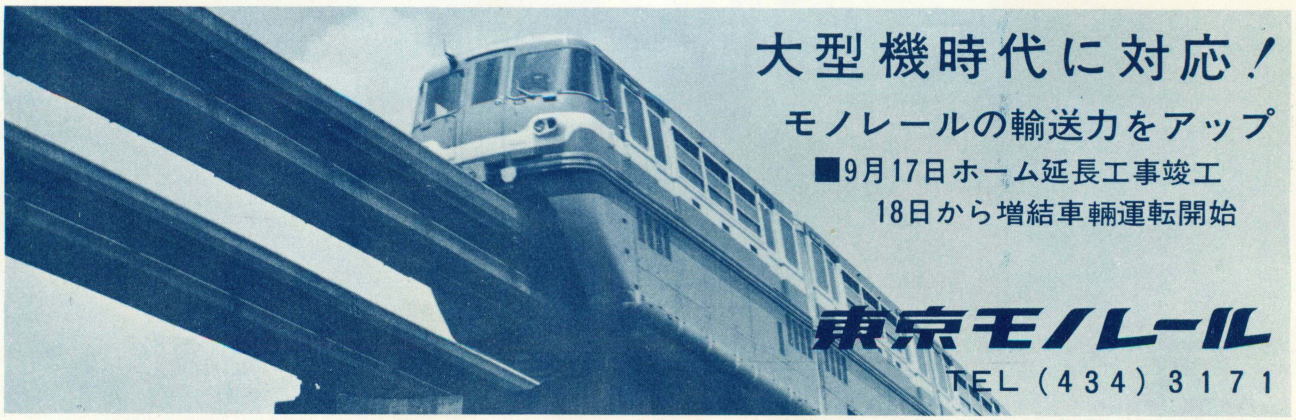
スタッフ

製作……佐藤正之
〃……椎野英之
原作……山崎朋子（筑摩書房版）
脚本……廣澤榮
〃……熊井啓
監督……熊井啓
撮影……金宇満司
美術……木村威夫
録音……太田六敏
照明……椎葉昇
音楽……伊福部昭
東宝・俳優座提携作品

キャスト

三谷圭子……栗原小巻
北川サキ（若い時）……高橋洋子
〃（晩年）……田中絹代
おキク……水の江滝子
おフミ……水原英子
竹内秀夫……田中健（新人）
大郎造……小沢栄太郎
矢島……砂塚秀夫
矢須本……中谷一郎
山吉……浜田光夫
サト……岩崎加根子
ナミ……岸輝子





11月2日(土)公開 ヒビヤ 千代田劇場 TEL.(591)1211
特別鑑賞券発売中 一般1000円 学生 900円 のところ800円